

(前住議員) はい。議場の皆さんこんにちは。5番前住孝行です。

昨日、中国地方も梅雨入りし、防災意識を再確認する時期になったとも言えます。私自身も備蓄品や避難経路、支援について見直したいと考えたいと思いますし、水害のない梅雨を過ごせることを祈念いたしたいと思います。

さて、話は変わり、先日の12日曜日、香美町小代で「みかた残酷マラソン全国大会」が開催されました。

令和元年5月25日に国道482号が開通し、40分程でつく米から小代に抜けることができるようになり、地域交流の促進の一環として2年前にこの大会にエントリーいたしました。その後、コロナ禍に入り、延期、延期となってやっとの開催となりました。会場へ行って見ますと、2,000人を超える選手に付き添いの方を含めると、3,000人以上はおられたんじゃないかなというふうに思う大会でした。コースは文字どおり残酷な24キロのロードレースでしたが、小学生から高校生までが様々な形でこの大会に関わり、また、コース脇では地域の方や福祉施設の方々が旗を振って応援していただき、感謝の気持ちを持ちながら走ることができました。地域が一体となって催されている大会に触れ、昔あった「全国氷ノ山中高齢者マラソン大会」を思い起こさせる1日となりました。唯一、残念なことは肝心なつく米越えの道が通行止めで、往復で3時間かかったことです。早期に行き来できるようになることを期待します。

それでは通告させていただきます2点について順に質問をさせていただきます。

観光施策について

まずは、1、観光施策についてです。

コロナ禍で観光客のニーズも変化し、自然体験への注目度が高くなってきていると感じ

ます。このたび提案されています第10次総合計画の中に、氷ノ山キャンプ場整備を加えられ、町長の所信表明で述べられた方向性について具体的なことも見えてまいりました。利用者のニーズにあった整備をされると話されましたが、県の観光施策でもあるサウナ整備をしてはと考えますが、町長の所見を伺います。以上で壇上での質問は終わります。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。前住議員の一般質問にお答えします。氷ノ山キャンプ場にサウナを整備してはという御質問でございますけれども、わかさ氷ノ山キャンプ場につきましては、近年のアウトドアブームの後押しもあり、県内外から多くのお客様にお越しをいただき御利用をいただいております。依然コロナ禍ではありますけれども、今年のゴールデンウィークにおきましても天候に恵まれ、キャンプ場はにぎわっていたとの報告を受けております。

しかし、一方で、当キャンプ場は平成11年のオープンから現在まで約23年が経過をしており、バンガローや管理棟をはじめとした施設の老朽化が見られるほか、キャンプサイトについては当時のテントの企画をベースに設計されたもので、現在のキャンプで一般的に使用されるようなテントの企画より小さくサイトのスペース自体が狭いという問題点もございます。

そのような状況を踏まえまして、第10次若桜町総合計画の主要施策として、わかさ氷ノ山キャンプ場の改修整備を盛り込んだところでございます。さて、議員、御質問のサウナにつきましては、現在鳥取県が「ととのうとっとり」と題してウイズコロナに置ける観光施策として展開をされており、そのサウナ熱は広く伝播しているものと認識しております。それで、県内でサウナを設置しているキャンプ場を見ますと、琴浦町のフィンランド式サウナを設置されている一向平キャンプ場、また近隣では八頭町の移動式サウナを

設置されているふる里の森があります。

特に一向平キャンプ場につきましては、ゴールデンウィークでのサウナの利用が前年の3倍以上であったという記事を拝見いたしました。また、熱波師と言われる方の御活躍やサウナ旅がテレビで放映されるなど、県内各地でサウナに関する取組が行われており、サウナ熱の広がりを感じているところです。このように盛り上がりを見せておりますサウナ事業につきましては、集客が期待できるコンテンツの1つであり、オールシーズン化を目指す氷ノ山エリアに整備することは魅力的な取組であると考えております。

例えば、キャンプ場またはスキー場ゲレンデを活用して、移動式サウナテントを使ったイベントを行うなど、まずは氷ノ山エリアでのサウナ利用のニーズや課題を探ってみてはどうかと考えております。

また、サウナの運営には水が大量に必要となることから氷ノ山エリアの課題である水の確保についても検討を行う必要があると考えております。

以上でございます。

(山根議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。先ほど町長言われましたように、場所のことがあるのかなというふうに思いました。ちょうど山開きの日に八頭郡選出の県会議員の方と話す機会がありまして、やっぱりその話もして、どこがいいかなというような話をもう1時間ぐらいしたこともあります。

それで、なかなかその水もありますし、その景観のいいところでそうすぐにこう川にばーんと入れるような場所というのはなかなか難しいんですけど、氷ノ山でそういったところがあれば、また、何か新しいコンテンツにもなりますし、宣伝にもなるのかなというふうに思いますので、ぜひとも進めていただけたらなというふうに思います。

また、ちょっと**キャンプ場の改修**、改修というか整備についての調査をされるというこ

とで、やはり一番危惧されるのはやっぱり**カメムシ対策**なんかなというふうに思ったりもして、それで、そのカメムシで多分嫌になる方もあるのかなと思いつつ、そのカメムシと過ごすことがキャンプ場の醍醐味になるんかもしれませんし、その辺のこともあると思います。

さらに、キャンプ場で今**Wi-Fi**がつかないんですけど、そういったニーズもあるのかなと、また、やっぱりそれもキャンプに来ておるだけ、**Wi-Fi**とかも切り離すって思っておられる方もあるかもしませんが、そういったこともあるのかなというふうに思います。

それと今は、キャンプ場は季節を区切られてやられると思うんですけど、**冬のキャンプ**というの、多分ニーズもあるんじゃないかなというふうに思います。私自身はノルディックスキーのちょっと指導とかしたりしたときに、本当に新雪の中、キャンプ場まで上がったことがあったんですけど、そこでも結構冬山登山の方もたくさんおられますし、その新雪が積もったところでまたいい天気だとすごい何か、冬景色とともに、こういう場でキャンプしてもいいのかなというふうに思ったりもしました。

そういった勝手な私の思いですけど、そういったニーズもあるんじゃないかなというふうに思いますので、調査をされるときにそういった項目等を入れていただけたらなというふうに考えておりますが、いろいろ申し上げましたけど、そのことについて町長、何か所見がありましたらお願いします。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。サウナに合わせまして今後のキャンプ場のリニューアルの調査に関連しまして幾つか検討項目の御提案ありました。カメムシ対策というのは、そういうのがあるのかなと今改めて思ったんですけども、快適にキャンプ場で過ごしていただくためにはやはり**カメムシ**がないほうがよろしい

のかなと思いますので、どういった方法があるのかという、また専門家にも聞いたりしながら、その辺も検討していったらいいかなと。

Wi-Fiについても、やはり最低あのエリアでWi-Fiがつながるといのはこの御時世ですので必要なインフラだと思いますのでその辺りも含めて考えたいと思います。

それから冬のキャンプニーズということがありました。今、ソロキャンプのブームということで、一人で雪の中でキャンプをするというのもそういう思考も今あるのかなと思います。また、冬の冬山であればウイルスの関係でかぜが治るとかそういうことをおっしゃる方もいらっしゃるので、いろんないい面もあるのかなと思いますし、ただ、冬キャンプ場となりますと、そこへたどり着くまでの除雪ですとか、非常にむずかしいことあるかと思しますので、その辺せっかく提案いただいたので可能な範囲で検討していきたいと思えます。以上です。

(山根議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。ありがとうございます。次に参りたいと思えます。

2019年12月議会で中之島公園の利用方法についての質問をさせていただきました、野球場の利用が激減している中で、より有効な利用方法を早急に検討する必要があると思えます。ここ中之島公園でも先ほどのサウナ整備を含め、キャンプ可能な場所へ転換してはと思えますが、所見を伺います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。中之島公園でもサウナ整備を含めキャンプ可能な場所へ展開してはどうかと考えるが町長の所見を伺うということでございます。

中之島公園は子どもたちが楽しく過ごせる遊具等を備えた「木漏れ日広場」やスポーツ振興を図るための「多目的広場」、そして利用者がゆっくり過ごせる「芝生広場」のこの3つの施設が整備をされておりまして、平成10年のオープンから数えまして今年で24年を

迎えます。この「木漏れ日広場」につきましては町内をはじめ市内あるいは県外からも多くの子ども連れの御家族が利用されていますし、公園の外周路では散歩やジョギングなど思い思いの運動をされたり、また、「芝生広場」でくつろがれている姿をよく拝見をいたします。

その一方で、「多目的広場」につきましてはオープン当初は本町にも若桜スポーツ少年団野球部がありましたので、多くの子どもたちに利用していただいておりますけれども、子どもの減少により野球部が解散されてからは前住議員がおっしゃるとおり、「多目的広場」の利用も激減をしております。

参考までに直近5年間の利用申込みの実績を申し上げますと、平成29年度は222日、30年度は197日、令和元年度この年に野球部が解散しておりますけれども50日、その後令和2年度は4日、令和3年度は17日ということで、令和元年度の野球部の解散を境に激減をしているところでございます。

議員からございました中之島公園でもサウナ整備を含めキャンプが可能な場所へ転換してはどうかの御質問でございますけれども、コロナ禍でアウトドア、特にキャンプの人気の再燃によりましてキャンプに参加人口が増えつつあるということは承知をしているわけですけれども、先ほど申しましたとおり、氷ノ山キャンプ場の改修整備を総合計画に盛り込んで今議会に調査費の予算を提案しているところでもございます。議員がおっしゃいます中之島公園へのキャンプ場の転換について一つの考え方だとは思いますが、私としてはキャンプ場について、まずは、氷ノ山キャンプ場の整備を優先的に進めていきたいと思っております。

ただ、先にも述べましたけれども、「多目的広場」の利用は激減していますので、町全体の既存施設の役割分担を明確化しながら、特に、この中之島公園については子ども連れを中心に大変集客力がある「木漏れ日広場」が

2022 6月若桜町議会一般質問 Q&A 全貌

あるということもございますので、それを生かした中之島公園の再整備というものを今後検討していきたいと思っております。以上です。

(山根議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。「木漏れ日広場」というのを、僕、初めて確認させていただいて、そういう名前だったんだなというふうに思ったところです。なかなか氷ノ山のキャンプ場をメインということで、そんなに考えていないというふうな答弁で、残念な面ではあるんですけど、やっぱり若桜宿内の泊まる場所がないという、宿泊場がないというところを思っただけのこういってできないのかなというふうに思っただけの質問にさせていただいております。若桜宿内で泊まる場所があればそこまではなかったのかなというふうに思ったりもしますので、またそのことについてもまた何か考えがありましたら聞かせていただけたらなというふうに思ったりします。

先日、旧森林組合跡地に夜、日曜日の夜に行っただけですけど、すごいやっぱり蛍の飛び回りが伺えました。これまで何回か見に行っただけですけど、僕の中では一番多かたったかなというふうな感じで何か幻想的な雰囲気にならないうふうな感じで感じたなというふうな思いだったんですけど、一緒に、たまたま地元の方の方も来られていまして、結構肌寒い夜だったんですけれども、やっぱりその様子を見て「初めて見た。」と言って、何か長いこと結局その場におられた様子を見てやっぱり地元でもなかなか改めてそういって見たりするのもないかなというふうに思ったりしたところでもあります。そういったよさというのがやっぱりここにはあるかなというふうに思いますので、そういったところも含めて多目的広場の改修も考えていただけたらなというふうに、改修じゃない、利用か、考えていただけたらと思っております。

では、次の3の質問に移りたいと思っております。氷ノ山や中之島公園へキャンプに来られた方に、中之島公園はなくなったのかもしれない

んですけど、若桜で採れた野菜や肉などを提供できる仕組みをつくることで、町長の言われる「地消地産」へつなげられると考えます。

例えば、地元食材をファミリーパックのような形でメニューとして道の駅や味工房などで提供して、その利用者に消費してもらったり、また、利用者のニーズに合わせた生産をしてもらったりすることができ、地域内循環を促進することができると思っておりますが、所見を伺います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。氷ノ山や中之島公園に来られた方に地元の食材を提供し、楽しんでいただく一方で、ニーズに応じた野菜や肉などの食材を地域で生産することで地域内循環を促進してはどうかというお尋ねでございます。私も所信表明のときに地域の物は地域で消費する地産地消は基より地域にないものがあるならば何とか地域で生産できないかと知恵を絞る地消地産の発想も持ちながら、地域からお金の流出をなるべく減らして地域内の経済循環を強固なものとして雇用創出や所得の確保につなげていきたいというふうに申し上げました。

もう少し具体的に御説明いたしますと、例えば地元の飲食店で食事をすればその代金というものはその飲食店の売上げになります。その飲食店がその料理の材料として米や野菜を地元の商店から購入すればそのお金は次の段階では地元の商店の売上げになります。その商店がその米や野菜を地元の農家から仕入れていけば、またその次の段階ではそのお金は農家の売上げになります。

つまり一旦地域に入ったお金が最終的にその地域から出ていく前に何回その地域内で使われるかということが大事で、地域内で何回も使われるほどそれだけ多くの人やお店、事業所の収入となり、経済的に波及効果が地域に広がっていくということでございます。こうして地域経済が元気になっていくことで人口減少への歯止めにもなるのではないかと

うことを、期待をしているものでございます。

さて、前住議員から地域内循環の促進というところでキャンプに来られた方へ地元野菜や肉の提供についてのお話をいただきましたけど、今お話をしたとおりに大変重要な視点だというふうに考えておりました、ぜひそういう方向で取り組んでいただきたいと思います。

この7月の1日から氷ノ山で開始予定の「G o G o バーベキュー」につきましても、先日実施事業者の皆さん4事業者でございますけれども、お集まりをいただいた説明会の場で地元の農畜産物を利用してくださいという要請をいたしましたし、また、観光開発事業団の評議員会の場で氷太くんやキャンプ場での食材の地産地消について、これは私のほうから直接お願いをしたというところでございます。「G o G o バーベキュー」の実施事業者のほうからは、早速地元産の農畜産物を活用することと、あと、若桜鉄道を利用して来場された方に特典を、プレゼントを与えるということについて事業者の間で申合せをしたというふうな御連絡もいただいたところでございます。こうした取組を今後道の駅などでも広げていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

(山根議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。氷ノ山のキャンプ場だけになると、なかなかつく米までという、つく米だけという感じになってしまうので、本当に中之島公園でとなれば、ちょっとまた若桜全体で野菜とかが集まってくるのかなというふうに思ったりもして、ちょっとこういった質問をさせていただいております。

私自身も結構、親戚とかからいろんな野菜をいただいたりもしていて、本当にこれ売ればいいのになと思うような野菜を作られる方ばかりおんさるじゃないかなというふうに思ったりしています。それで、本当、お金払いますかというぐらいの物なので、そういった物が本当言ったらちゃんとお金になって、それでそれを食べていただいて、そした

らまたその利用者の方と地域の方とのつながりというのもできてきて、それで、ふるさと納税につながるみたいなことになったらいいなというふうに思ったりもしておるわけでありまして。そのことに関して、止めましょうか。はい。次に行きます。

さらに、若桜町全域が星空保全地域に指定されているように、澄みわたった夜空に輝く星も地域の魅力の1つであります。星について紹介できる人材を育成し、**星空ガイド組織**をつくることで夜の若桜ファンも増えるのではないかと考えます。町長の所見を伺います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) 星について紹介できる人材を育成し、星空ガイド組織をつくることで夜の若桜ファンも増えるのではないかと御提案でございます。

本町では令和元年度に星空保全地域の指定を受けて以降、星空フォトコンテストを開催し、作品の展覧会や応募作品を使用した名刺やポスターを作成するなど、若桜の星空のPRを行ってまいりました。

また、響の森では星空観察会やバーチャルリアリティーによる星空の観賞が行われております。さて、星について紹介できる人材を育成し、星空ガイド組織をつくるのはという御提案でございますけれども、県のほうで例えば無料で星空案内人の資格を取得することができる鳥取県が行う「星取県星空案内人資格取得講座」というのがございますので、こういった講座も活用しながら進めていければと思います。星空の観察も含めまして体験型の観光を進めていく上でガイドの育成というのは非常に大きな課題であると思います。今時点、町内には星空ガイドができる人材というものは確保ができていないという状況かと思っておりますけれども、今後、観光協会など関係機関とも連携をして人材の育成確保に努めるとともに、当面は外部の人材も活用しながら本町の星空の魅力をPRしていきたいと考えております。以上です。

(山根議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。以前、平井知事にもそういった紹介をしていただいて、若桜でこういった星空イベントっていうことを言われたので、それで、なかなか雨のとき用の何か代わるイベントのあれがないっていうふうに話をさせていただいたときに、今、VRあるがなみたいなことを言われて、なるほどなというふうに思ったこともあったりもしました。それで、県のほうにもそういった案内人の資格、資格じゃないわ、案内人を育成する事業というのがあるというのも初めて知ったんですけど、佐治のアストロパークの方とかが結構気軽に応募したら教えてくれるっていうことも聞いたりもしておいて、そういったイベントやあもなかなか、なかなかというか、やろうと思ったらできるようになってきたかなというふうには思ったりもしております。

中之島のキャンプ場がなくなったので、なかなか難しいかもしれませんが、こういったことも含めて全部含めて、あそこの活用っていうのがいろいろ考えられるなというふうに思ったんです。あそこは氷ノ山樹氷太鼓の練習場所の施設もありますし、もしキャンプに来られた方があったら体験とかもできるようになるのかなというふうに思います。受入れもできるのかなというふうに思ったりもしていますし、以前、「中之島公園にステージ整備を」という陳情もあったりもしております。その件についてもどうなったか、まだ分かりませんが、そういったステージができたりすれば、音楽関係の方の練習場所にもなるのかなというふうに思います。今は公民館の集会所でされているかもしれませんが、また新たな拠点になるのかなというふうに思ったりもしていますし、本当に春は桜、夏は蛍や星、それで秋は紅葉、あと、冬は冬景色、また年間通しての「木漏れ日広場」の遊具使用というような若桜の中之島公園一帯をどのようにしていくのか。ストーリー性を持って町長のデザインを形にさせていただけたらなというふ

うに思っております。はい。

町職員の働き方について

では、次の大きな質問に移りたいというふうに思います。

町職員の働き方についてです。

人口減少においてマンパワーの不足について危惧している私の同級生が下町にいて、そのことについて話してから、私自身つくづくマンパワー不足を実感しています。

そんな中、4月11、12日に全国市町村国際文化研究所、J I A M といいますけど、が開催している第1回市町村議会議員特別セミナーというのをオンライン研修で受講いたしました。

福井県の杉本達治知事の地方行政と政策デザインという講義を聞きました。その中で「福井式20%ルール」と「福井県地域ビジネス兼業促進制度」という取組に興味を持ちました。その取組とは、**職員が勤務時間の一部、ここでは20%以内を活用して担当業務以外に新たな政策の企画立案等の政策的活動に従事することができるものと、県内の民間企業や公益法人等に県職員が兼業で事業参画する**ものです。

こういった事例を組み合わせると本町でも導入し、職員の意識の向上を図れば、地域課題の解決に寄与し、今以上に町民の目線で考えられるようになると思います。町長の所見を伺います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。「福井式20%ルール」と「福井県地域ビジネス兼業促進制度」の導入による職員の意識向上と地域課題の解決についての所見を伺うというお尋ねでございます。

令和元年10月に福井県が創設されました「福井式地域ビジネス兼業促進制度」は、職員が公務員としての身分を有しながら民間企

業等の現場に出ることで、地域の実情の把握と県政へのフィードバックを可能とすること、そして職員の行政経験知見を有効活用し、地域課題の解決に寄与すること、また、職員のスキルアップや地域とのつながりの強化を期待されてのものであろうと思います。

また、令和3年の4月に導入された「福井式20%ルール」は、勤務時間の20%以内で本来の担当業務以外の業務に従事することができるとするもので、これにより職員は担当業務にとらわれず職員が持つ専門性等を生かした政策、企画の推進と職員の意欲向上、成長促進、自立的なキャリア形成を狙うものというふうに思います。この2つの制度を取り入れることになれば、より地域に密着した行政と職員の資質向上や能力発揮をより一層可能にすることができるであろうと考えられます。

ただ、もとより県と町では規模が大きく違いまして、福井県については一般行政部門だけで職員数が約3,000人弱、本町ではこの6月1日現在で勤務する職員数が74名ということでございます。また、近年、業務量の増加や複雑化に伴う時間外勤務も常態化しておりまして、人員に何か余裕がないという状況もありまして、福井県の取組をそのまま本町に当てはめるといふのは難しい面もあるかと思っております。しかしながら、この20%ルールにつきましては、例えば課題やニーズに応じたプロジェクトチームを、編成をして、担当外の業務についても職員同士で議論して企画、政策立案を行うというようなことは可能であろうと思っておりますし、また、兼業促進制度につきましても、地域の人材不足、議員がおっしゃいましたけれども、そういったことが言われる中、職員も地域の一員として具体的なニーズがあれば業務に支障がない範囲で兼業を認めるということもあってよいのではないかなというふうに思います。いずれも職員の能力の向上やまちづくりにつながるものでありますので、検討してみたいと思っております。以上です。

(山根議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。これまででもですし、今もでしょうけど、例えばですけど、こども園、学園のPTA役員とか、そんなのをはじめといたしまして、様々な事務などを受け持っておられる職員の方、多いんじゃないかなというふうに思います。それは自分の仕事以外の部分で持っておられて、それは職務とは別で職業されていると思うんですけど、やっぱりそういった役場の職員の方っていうのは本当、貴重な存在でありまして、地域の中でも。そういった方が関わってくださることで事業できるっていう部分もあったりするなというふうに思っております。私自身も今ちょっと県の河川愛護の草刈りのボランティアのやつの事務をしているんですけど、それはいいんですけど、僕がすればいいんですけど、そういったものとかがあれば、本当に八東川の草刈りがすごいきれいになっていきます。もし僕がその事務をせんかったら、八東川の草が多分ぼうぼうというか、生えたまままで地域の方の活躍する場もちょっとなくなってくるのかなというふうに思ったりもします。

ですので、そういった何かちょっとした、ちょっとしたじゃないかもしれませんが、結構大変な事務かもしれませんが、そういったものが町の担当の職員以外の方で受け持ってもらえれば、ずっと、その「思い」もつながっていくでしょうし、**地域の方を巻き込んで**というような活動にもなるのかなというふうに思ったりします。また、担当している職員さんもおられると思います。それで、**住民の立場から職員さんと意見交換**もできたりもして、より町民目線の事業につながっていくかなというふうに思ったりもいたします。

町長も先ほど、検討してくださるということです。そういった20%とは言わず、ちょっとだけでもそういった勤務の一部として認めていただけたらいいんじゃないかなとい

うふうに思ったりします。

では、次の質問に移りたいと思います。

またライフスタイルシフト、若手職員のアイデアを生かした働き方改革ということで、福井県庁内では資料の電子化などペーパーレス化も推進されています。会議などもリモートでできて、移動中の車の中からも会議に出席できたり、スケジュールにその会議名と資料が添付されているので、いざ資料が欲しいときに、いついつの会議で協議した資料を、どこにいても見られるというふうに杉本知事が話されておりました。若桜庁舎内のペーパーレス化の現状と今後の取組について伺います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。庁舎内でのペーパーレス化の現場と今後の取組について伺うということでございます。

総務省では令和2年の12月に、自治体が重点的に取り組む施策をまとめた自治体デジタルトランスフォーメーション、DXの推進計画を策定をしまして、その計画において業務の効率化、住民の利便性の向上を図るために幾つか重点取組事項ということで上げております。

申し上げますと、1つ、自治体の情報システムの標準化、共通化。2つ、マイナンバーカードの普及促進。3つ、自治体の行政手続のオンライン化。4つ、自治体のAI、RTAの利用促進。5つ、テレワークの推進。6つ、セキュリティ対策の徹底、こういったことを重点取組事項として計画に盛り込んでおるという状況ということでございまして、本町としましても行政の、申し上げたようなデジタル化を進めるに当たりましてペーパーレス化、電子化というのは必要不可欠な取組であると認識しておりますし、また、職員の業務効率の向上やコストの削減などが期待できると考えおります。

しかしながら、本町の現状について申し上げますと、平成20年の3月から電子決済シス

テムを導入しておりますけれども、近年では庶務に関する事務以外は使用ができていないという状況でありまして、ペーパーレス化が進んでいるとは言える状況ではありません。また、電子データの保管については各課等で共有ディスクホルダーに蓄積されつつありますけれども、ルールがまだ未整備のために体系づけられたデータの保管というものができていないのが実情でございます。今後は既存の簿冊整理や廃棄、簿冊保管場所の確保であったり、共有ディスクホルダー内の電子データの整備、廃棄、それから電子決済の推進、**タブレット導入による会議でのペーパーレス化**、それから**電子申請、オンライン申請の推進**など、可能なかぎりできることから取り組んでいきたいと考えているところでございます。以上です。

(山根議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。たくさん言われたので、ようメモしませんでしたけど、やはりやっぱり県におられて町に来て、やっぱりそうやって比べられているいろいろ本当に感じられておる部分もあるのかなというふうに思ったりもしておりますので、ぜひともそういったペーパーレス化のほうを進めてほしいなというふうに思います。

私自身も本当、こういった紙で本当持たずに、本当タブレットでこうやりたいなというふうに思ったりもするんですけど、まだ承認が得られてないので、いつも紙で用意してやっていますけど、そういった時代になってくるかなというふうに思いますのでよろしく申し上げます。

では、最後の質問に移りたいと思います。

コロナ禍でリモートワークが進んで来ていますが、本町ではあまり進んでいないように感じます。町内でのリモートによる会議、環境整備などに取り組むことはBCP事業継続計画にも活かされると考えます。町長の所見を伺います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) はい。町内でのリモートによる会議環境整備などに取り組むことはBCP事業継続計画にも活かされると考えるが所見を伺うということでございます。

リモートによる会議環境整備の取組についての御質問ですけれども、働き方改革の一貫として政府が推奨してきたリモート会議やリモートワーク、テレワークですね、これが新型コロナウイルス感染症対策の一つとして注目されると同時に身近なものになってきました。リモート会議については、職員が参加する会議についてはかなり推進が図られていると感じております。今年度の職員研修においては大部分がリモートでの開催予定と、開催されると思われる、今後開催予定となっております。また、各種会議においてもウェブ会議形式が取られることが増えるなど、職員にとってはリモート環境というのが日常になってきたのかなというふうに思います。

現在、役場庁舎ではウェブ会議専用のパソコンを、2台用意をしまして、職員各自がパソコンと会議室を予約してウェブ会議等に参加をしているところでございます。ただし、町が開催するほうの会議ではまだあまり活用されておらず、特に町民を対象とするような若桜町内での会議においては、ごく身近な生活圏域の方との集まりということもございまして、現在リモートでの開催は行っていない状況でございます。リモートでの会議は環境さえ整えば遠方からの参加者は移動時間の短縮が図られることで時間の有効利用にもつながりますし、育児中、介護中の方も自宅から参加ができるということであれば、外出する場合に比べて気軽に参加ができるという、そういったメリットも多いのではないかと考えます。

また一方で、課題と言いますか、画面上のやり取りではなかなか意見が述べにくいとか、全体の空気感を読み取ることが難しく会が一方的なものになってしまいがちだと、そういうコミュニケーション不足が起ったり、通信

環境が安定しないと思うように会話が聞き取れない、参加できないといったような課題もあつたりします。そういった課題も踏まえながらではありますけれども、今後町が開催する会議等についても活用増やすとともに、会の特性を考慮した上で参加者個々の希望にも柔軟に対応できるよう対面参加、リモート参加が選べるような形にするなど、時代のニーズに合ったような形で開催方法を検討してより充実したものになりたいと考えております。

一方、リモートワーク、先ほどリモート会議のほうの話だったんですけど、リモートワークのほうにつきましては働き方改革の一貫として政府が推奨をし、新型コロナウイルス感染症対策の一つとして改めて注目されると同時に身近なものになってきましたけれども、本町においてはまだリモートワークというのはなじみが薄いのかなとふうに感じております。

また、自治体がリモートワークを推進するには幾つか課題もございまして、例えば窓口業務などの行政手続の多くは対面で行う必要があるものもあつたりしますし、テレワークでできる業務には限界があります。また、個人情報等を多く扱う業務は庁舎内でのみ使える専用回線や専用パソコン等で管理しているものもありまして、セキュリティ対策が大きな課題であります。その他、職員間での気軽な相談や報告が困難になるとか、画面を通じた情報のみで、ストレス感じるといった弊害も聞かれますし、在宅勤務によって仕事と生活との境界が曖昧になることで、勤態管理が難しいといったようなこともございます。

幾つかちょっと課題を申し上げましたけども、リモートワークの制度化というのは、まだ解決すべき課題があると考えております。しかしながら、議員の御指摘のようにリモートへの取組を推進することで、何かの事情でその役場に出て来られない状況があつた場合に、リモートワークを使うことでBCPの事業継続計画にも大きな効果があると考えま

2022 6月若桜町議会一般質問 Q&A 全貌

すので、町の実態に合わせて制度として導入できることは前向きに取り組んでいきたいと考えております。以上です。

(山根議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。全く町長の言われるとおりで、僕が言おうと思ったことも結構出たかなというふうに思います。

今、新型コロナウイルス感染症対策から、からじゃないけど、もう結構前から、リモートワークや会議が注目されてきていることを思いますし、ほんとBCP事業継続計画に活かされるということで、防災時とかが特にそうなるのかなというふうに思ったりもしました。育児や介護世代の働き方支援という気にもなるのかなというふうに思ったりもしますので、ぜひとも進めていただけたらなというふうに思います。

以前、ちょうど議会事務局に用事があって第1会議室のところを通らせていただいたときに、幹部会議をされていたのかなというふうに思ったりもするんですけど、たくさんの方が集まっておられたなというふうに思ったりもして、それは全部否定をするものではないんですけど、そういうことも必要なときもあったりもすると思うんですけど、そういったところを見たもんでして、リモートで会議できるようになっていたら、そこまでなくてもいいのかなというふうに思ったりもしました。

先ほど町長が言われたように、メリット、デメリットがあるというふうに思ったりもしますので、その辺を上手に使い分けながらやっていただけたらと思います。

その手法の幅が広がればよりよい会議運営にもなるかなというふうに思いますので、早期の環境整備をしていただけたらなというふうに思いました。

ここ全体を通して町職員の方のよりよい働き方について僕が考えられる提案をさせていただきますけど、何かこうしていきたいみたいな町長の思われている新たなものというの

があったりしましたら教えていただけたらと思います。

(山根議長) 答弁を求めます。上川町長。

(上川町長) 職員の働き方の改革に向けて何か新しいことがあるかということでございますけど、新しいことということではないんですけども、最初申し上げましたように、地域の担い手不足というのがありまして、やっぱり職員も地域の一員として、地域でも活躍をしていただくということがやはりこの過疎化が進む町の中では大事なことであろうと思います。

それで、兼業ということでは福井県のほうでは推進をしとるわけですけども、公益的な活動について、既に神戸市とか、奈良県の生駒市ですかね、そういう制度を導入されているところもありますし、職員のそういった活動に対して役場としても何らかの後押しをするようなことができないかなということとはちょっと今後検討していきたいなと思っています。

それと、リモート環境の話もありましたけれども、やはりこのたびのコロナ関係で幸い町内では出ていないんですけども、例えば、窓口でコロナの職員が陽性にかかって、周辺の濃厚接触者も含めてごっそり休まなければいけない、自宅待機というようなことがもしあった場合に、こういうリモート環境、リモートワーク、家でパソコンを見ながらということができればそういう危機対策、基幹対策になるわけでございますので、そういったことも念頭に置きながらそういう役場になくても仕事ができるような環境づくりといえますか、そういったことも考えていかなきゃいけないかなと思ったところでございます。以上です。

(山根議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。本当に町長と同感することが多くて、もう期待をするばかりであります。

私事ではありますが、4期目初めての質問

2022 6月若桜町議会一般質問 Q&A 全貌

となりました。これまで小林前町長、矢部前町長に質問してきたことを上川町長はどう考えられているのかなということを探ねることとなります。

後継で出られたのであればそんなに大きく変わることはないんでしょうけど、このたびは後継での立候補ではなかったと思っておりますので、全部聞くとなると12年かかります。一度にできる項目は限られておりますので、このたびは2点に絞って質問させていただきました。

町長の所信表明であったことを基本に少しずつ質問していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

以上で終わります。